

# 消化器検診 Newsletter

No. 86

発行所: 日本消化器がん検診学会  
 関東甲信越地方会  
 〒112-0014 東京都文京区関口1-14-7  
 和田文栄ビル2階  
 TEL / 03-3267-0678  
 FAX / 03-3235-7647  
 E-Mail: kantou@jsgcs.or.jp

[日本消化器がん検診学会関東甲信越地方会機関紙]

## 日本消化器がん検診学会 関東甲信越地方会の運営に対する提言

三ツ沢ハイタウンクリニック

(日本消化器がん検診学会関東甲信越地方会・監事) 増田 英明



### 【はじめに】

私は2009年9月より日本消化器がん検診学会関東甲信越地方会(以下、本学会)の監事を務めてさせていただいております。昨年度に細井前監事他2名の退任に伴い、藤田昭氏と私の2名が林代表より推挙され、2009年9月6日に開催された第69回本学会に世話人会及び総会において承認を受け、監事を拝命いたしました。早いものでこれより10ヶ月近くが経過いたしました。

ここ最近では日本消化器がん検診学会そのものが新しい社団法人化への移行に向けて動き出しており、新しい社団法人化への移行については後述いたしますが、本学会においてもそれに合わせた対応の必要性に迫られてきております。ちょうどその折に、学会事務局の移転や事務局前任者の退職等があり、これら大きな動きの中で学会運営について色々な事態を経験することになりました。監事(監査役)はその団体・会社が公正に運営されているかどうかを常に監視し、場合によってはその方向性を修正すべく勧告・指導を行うという重要な役目を担っております。いわば団体・会社の最高チェック機能と位置付けされるものであります。前述のようにこの大きな動きに対応するために藤田監事の協力を得てこの10ヶ月間に会計や学会運営について調査を行ってきました。その結果、本学会には他に追随を許さない極めて誇るべき事業活動が多いと判断される一方で、運営面において色々な問題点があることも浮き彫りになってきました。主に長年の活動による組織基盤の疲弊・陳旧化がその大部分であります。早期に是正されなけれ

ばならない事柄であることは事実です。折しも、本学会の広報誌であるニュースレターが諸事情で発行が遅れておりましたが、やっと発行される運びとなりました。そこで本学会広報委員会から本学会の現状の問題点とその対策並びに今後の vision について巻頭言として書いてくださいますとの依頼がありましたので、この場を借りまして若干の私見を述べさせていただきたいと思っております。

### 【本学会が直面している現状について】

#### 1. 本学会事業の総括

最初に本学会の事業について総括してみたいと思います。本学会は創設以来、胃がん検診の普及と啓蒙を目指して事業活動を行ってきました。その後、胃がん検診のみならず、時代的に増加の一途を辿る大腸がん検診もその守備領域となってきました。又、さらには肝胆膵がん検診を主体とする超音波検診も加え、広く消化器がん検診としてその普及と啓蒙を主たる事業活動として行っております。放射線部会、保健衛生部会、超音波部会合わせて1600名以上の会員を有する本学会は日本消化器がん検診学会の支部としては最大のものであり、その大きさのみならず、教育研修活動を始め、本学会は日本消化器がん検診学会の支部として常に他支部をリードしてきたと言えるでしょう。一例をあげれば放射線部会が定例的に行っている胃がん検診技術研修会です。これは本学会会員のみならず、全国の胃がん検診を行っている技師の研修の場になっており、非常に高いレベルの診断技術研修

が毎年行われております。そしてここで受講された技師の多くが各地域の胃がん検診を支え、全国各支部における教育研修の指導的立場に成長しております。又、超音波部会が始めて創設されたのも本学会であります。超音波部会は現在、初心者から指導者レベルまで幅広く研修会が設けられ、活発に研修教育活動を行っております。そしてこの活動が全国に波及し、7支部全てに超音波部会が創設されるきっかけとなりました。その後も本学会超音波部会は常に他支部をリードし、その手本となるべく、日本総合健診学会との共催によるスクリーニング研修講演会を行う等、活発な活動を展開しております。保健衛生部会も時代を反映してか、最近はその活動が低下してきておりますが、本学会総会においてシンポジウムを開催するなど、継続的に啓蒙事業を展開しております。

このように本学会は日本消化器がん検診学会の支部として中心的な立場にあり、常に他支部のリードする立場であったと言うことができ、さらにこの事実は誰も認めているところです。したがって今後もこのような存在であることを目指すべきであり、今後の本学会の vision を考える上で念頭に置くべきことと考えます。

## 2. 日本消化器がん検診学会との関係について

この項を進めるにあたり、新公益法人制度についての若干の知識が必要となります。この点については前総務担当理事であった小野良樹名

誉会員が平成 21 年 9 月 15 日発行の部会ニュースの中でこの新しい社団法人化への移行について平易に解説をしていただいておりますので以下、引用させていただきます。

「明治 29 年に制定された民法に公益法人としての社団法人・財団法人に関する規定が設けられ、以後、公益法人制度が設けられ現在に至っている。しかし公益法人が関与した不祥事が惹起したこともあって、平成 15 年に政府は抜本的にこれを改革する閣議決定をした。この基本方針に基づき、“一般社団法人及び一般財団法人に関する法律”、“公益社団法人及び公益財団法人の認定などに関する法律”、及び“一般社団法人及び一般財団法人に関する法律、公益社団法人及び公益財団法人の認定などに関する法律の施行に伴う関係法律の整備に関する法律”のいわゆる公益法人改革関連三法が平成 18 年 5 月 26 日に成立し、6 月 2 日に公布された。これら三法(新制度)は平成 20 年 12 月 1 日から施行された。従来の公益法人は公益社団法人・公益財団法人、または一般社団法人・一般財団法人のいずれかに移行すると言う選択肢がある。しかし、平成 20 年 12 月 1 日より、新制度施行後 5 年間は特段の手続きをとることなく従来と同様の法人(特例民法法人)として存続できる。これを受けて社団法人日本消化器がん検診学会は、特例民法法人となり、引き続き文科省の管轄下にある。しかしこのままでは平成 25 年 11 月 30 日に自動的に解散となる。社団法人日本消化器がん検診

## 目次

日本消化器がん検診学会関東甲信越地方会の運営に対する提言 増田 英明 .....	1
リレー随筆「検診に携わった技師として」 真下 敦子 .....	6
施設紹介 .....	7
第 70 回日本消化器がん検診学会関東甲信越地方会学術集会 .....	9
超音波スクリーニング研修講演会 2010 横浜 .....	10
第 70 回日本消化器がん検診学会関東甲信越地方会学術集会 「ザ・ベスト・イメージング・コンテスト」応募要項 .....	11
第 43 回放射線部会学術集会のご案内 .....	12
第 33 回消化管造影技術研修会のご案内 .....	13
第 34 回部会研究会総会プログラム .....	14
第 50 回日本消化器がん検診学会総会のご案内 .....	15
著書紹介「医療体制への鼓動」 .....	16
編集後記 .....	16

学会が存続するためには新制度である公益社団もしくは一般社団法人を選択しなければならない状況となっている。

### 1) 公益社団法人

学術、技芸、慈善その他の公益に関する種類の事業であって、不特定かつ多数の者の利益の増進に寄与する法人を言う。事業内容に公益性があると認められた場合、その部分は非課税となる。この公益性は不特定多数の人に利益を与えるもので、学会そのものが公益性かという、会費を納入した特定の人に利益を与えるもので、公益性とはいえない。しかし、本学会の学術および、がん検診という事業は不特定多数の人に利益を与えるものであるから公益性といえる。この場合公益事業比率は50/100以上でなければならない。全てが公益性事業と認定されれば非課税となる。しかしこれを維持するためには年度ごとに、内閣府におかれる公益認定委員会の公益事業に関するチェック、会計の厳しいチェックが行われることは言うまでもない。

### 2) 一般社団法人

事業には収益部門と公益部門がある。共益的活動を目的とする法人については収益事業のみ課税される。公益目的支出計画中は公益目的支出計画に定めた実施事業などを着実に実施することが必要であるが、それ以外については法人の創意工夫により公益的事業はもとより、柔軟な事業の展開が可能である。すなわち、公益目的支出計画実施中は毎事業年度の公益目的支出計画の実施報告が必要であるが、比較的自由的な立場で公益的な事業はもとより、様々な事業が実施できる。

### 3) 法人のガバナンス

従来の公益法人におかれている理事会や評議員、評議員会は主務官庁(本学会の場合は、文部科学省)の指導監督や法人の判断により置かれている任意の機関である。しかし、新制度においては法律に定める機関となり、その権限や義務は法律に定められる。したがって、従来の公益法人が新制度に移行する際には、法律に則った選任などの手続きを定款に定め、社員、評議員の選任などを行うことが必要になる。新制度ではこれまで認められていた委任状による代理出席が

認められない。一般社団法人、公益社団法人は概ね300人の正会員から一人の割合をもって代議員を選出し社員とする。一般社団法人は社員総会、理事が必置の機関である。公益社団法人は社員総会、理事、理事会、監事が必置の機関である。社団法人の基本事項の決定を行う社員総会の成立のためには総社員の議決権の過半数を有する社員の出席が必要である。また定款変更などの特に重要な事項については総社員数の半数以上であって、総社員の議決権の3分の2以上にあたる多数が必要になる。理事、監事は最高意思決定機関の社員総会で選任、解任される。この社員総会、理事会には委任状は認められない。

一般財団法人、公益財団法人は評議員、評議員会、理事、理事会、監事、または評議員、評議員会、理事、理事会、監事、会計監査人、からの選択肢がある。新制度ではこれまで認められていた委任状による代理出席が認められない。また定款変更などの特に重要な事項については評議員会における3分の2以上の多数の議決が必要になる。新制度では評議員、評議員会は役員や理事会を監督する役割を担う。したがって評議員、評議員会の十分な監督責任を果たすため、理事や理事会が評議員を選ぶことは出来ない。特例民法法人が公益社団、一般社団に移行した場合、特定の会計基準は義務付けられないが、どのような会計基準を選択する場合でも法令に沿ったものでなければならない。すなわち学会本部と支部の会計は画一的に連結していなければならない。本学会会員組織については全て本部所属になることが肝要と考える。したがって、たとえば、正会員と準会員を置くことになる場合もあろう。このことは定款によって定められるものである。さて公益にするか一般にするかはこれから熟考して選択することであるが、いずれにしても一長一短がある。しかし、現在の支部会計、ならびに支部会員構成ではいずれの法人にも適合できない。そこで定款を変更し、会員組織、会計基準も一新しなければならない。」(以上、平成 21 年 9 月 15 日発行部会ニュース「新公益法人制度について」より引用)

このような状況により日本消化器がん検診学会は新しい社団法人化への移行に向けて動き出しており、平成 22 年 6 月の総会において一般社団法人化の方向で定款改正を行うというところ

まで決定されております。

本学会はその成り立ちから日本消化器がん検診学会の支部だけではないという立場を主張しておりました。しかしながら前述のように一般社団法人化されると会計も含め、日本消化器がん検診学会の支部として位置付けである必要があります。この立場をとらなかった場合には日本消化器がん検診学会という名称の使用もできなくなりますし、支部会員で胃がん検診認定技師の資格を取得している会員はその資格を消失することになります。このままの状況では会員の不利益のみ多くなることになり、ひいては本学会の目的も達成不可能な状態となる可能性が非常に高くなります。そこで昨年 9 月 6 日に開催された第 69 回総会において私が「本学会は日本消化器がん検診学会の支部として位置付け、それに合わせた対応を行うために委員会を設置し、会員に広報活動を行う」ということを提案し、承認を得たことを会員の皆様は既にご承知のことと思います。たまたま私は日本消化器がん検診学会の監事でもあり、定款改正ワーキングの委員長をしております関係上、正しい事実を伝達することが可能でありますので、今後の活動において会員に広報していきたいと考えております。

### 3. 本学会の問題点

今後の活動を考えるにあたり、まず現状における本学会の問題点を列挙する必要があります。これは前述のようにもう一人の監事である藤田昭氏の協力を得てこの 10 ヶ月間に私なりに会計や学会運営について調査を行ってきました。主に組織基盤や会計のことになりますが、簡単に述べさせていただきます。

#### ① 基本的な学会運営基盤について

世話人会や総会などの本学会の議事録を皆さんは目にしたことがあるでしょうか？又、事業報告を確認したことはあるでしょうか？本学会が法人団体であれ任意団体であれきちんとした学術団体であるならば事業報告や正式な会議の議事録を残す必要があります。これがまったく残されていないならまともな学術団体とは言えません。

又、本学会の運営を行う上で必要な規則の保存がなされておられません。かろうじて定款や一

部の規則は残されておりますが、事業報告・議事録とともに保存をきちんと行うべきでしょう。すでに廃棄されたとの話も聞きましたが、これが事実であれば極めて由々しき問題です。今までは慣例・通例として事業運営がされていたようですが、これはもう通用しません。今後を考えると早期に修正されるべきです。

以上のような基本的な学会運営基盤に関する整備欠如が目につきました。

#### ② 事務局について

前任の事務局員の事務執行内容をみるとその収入に見合う労働がなされておられません。事業執行についてはその大部分が会員のボランティア活動によるものであったようです。会員に負担をかける事務局運営は決して好ましいものではありませんし、偏った運営になってくる可能性も否定できません。

#### ③ 財務・会計について

会計報告をみるとその内容は学会事業に即した項目になっておられません。現在の支部会計では法人格に適合できない内容です。以前に日本消化器がん検診学会から指導された内容で変更をお願いしましたが、それはできないとの一点張りでありまだに修正されていません。監事(監査役)の会計についての修正依頼を会計士が拒否することなどありえない話です。会計内容については現在、監査を継続しておりますが、前述のように人件費比率が高すぎるなど、いくつかの問題があります。これは今年度総会において会計監査の中で詳細を報告したいと思っております。

#### 【今後の対応について】

前項で指摘した問題点を中心に今後の取るべき具体的な対策について述べさせていただきます。すでに一部は現在、取り組みが始まっているものも含んでおります。尚、今回は本学会運営における具体的な事項しか述べることができませんでした。今後の vision についてはここではふれませんのでご容赦下さい。

1. 基本的な運営の確立が最も優先されるべきである。

前述のように本学会においては基本的な学会運営基盤に関する整備欠如があり、これは早急に是正すべきことです。是正のためには欠落しているものを調査し、補充していく必要性があります。各部会も含めた取り組みが必要であり、学会運営基盤に関する整備のための委員会の設置を提案いたします。これは基本的な学会運営基盤に関するインフラ整備を担当するもので、従来から本学会の中に設置されている企画委員会の事業が重複するものではありません。

2. 各委員会の活動が強化されるべきである。

本学会には企画委員会や広報委員会をはじめ、いくつかの委員会が設置されています。総会の開催等、本学会の全体の事業運営を司る企画委員会は現在、年1回の開催ですが、事業全体の内容と量を考えるともう少し開催回数を増やすべきと考えます。広報委員会も一個人に頼る編集運営には限界があり、本学会の広報活動の一部としてホームページの創設を提案されていることですので、もう少し全体での運営を試行すべきと思われます。その他の委員会も全体的に休止状態のものが多いような印象ですので委員会毎の活動が強化されてくれば自ずと全体の活動が活発化するものと考えます。

3. 事務局運営と会計財務は公明正大でなければならない。

2010年4月に本学会事務局は日本消化器がん検診学会事務局内に移転し、事務局担当者も新規に採用され、すでに事務局運営が開始されています。財務・会計が引継ぎの関係で多少、遅れておりますが、ほぼ定時の運営状態に近づきつつあります。又、本学会の会計を担当する会計事務所も日本消化器がん検診学会と同一の会計事務所に今年度からすでに変更されています。本学会事務局が日本消化器がん検診学会事務局内にあることは運営面や財務・会計について修正や各種の指導があるので今後の法人化に対する対応を考えると多少、安心ではあります。あとは偏った運営になっていないかを常にチェックすることです。

今後、会員全体で見守っていくことをお願いいたします。

【終わりに】

以上、監事の立場として、本学会の置かれた現状と問題点並びに今後の対応案について私見を述べさせていただきました。本学会の問題点の項ではかなり辛辣な指摘をいたしました。これは今まで本学会のために尽力されてきた先達を誹謗・中傷するものではありません。これらの問題点は前述のように主に長年の活動による組織基盤の疲弊・陳旧化がその大きな要因なのであります。この事実を受け止め、直ぐにでもその対策を始めなければならないことをご理解いただきたいと思います。さらに時代の変化に合わせた対策を講じ、変革をしていかなければ対応できない状況になっていることも強く認識していただきたいと思います。言葉の行き過ぎについては平にご容赦いただきたいと思います。考える次第であります。



## リレー随筆

### 「検診に携わった技師として」

財団法人 駒沢健康管理センター

真下 敦子

NPO法人日本消化器がん検診精度管理評価機構が提案し推奨する基準撮影法の講義をさまざまな勉強会、研究会などで受講した方は多いと思います。今回は基準撮影法を学ぶために早期胃癌検診協会で研修を受けた者として、研修の感想なども交えて書こうと思います。

2年前の技師歴10年の頃に研修に伺いました。今までに数万人の検査をした経験から、内心は今の撮影法のままで十分なのではという気持ちもありました。いざ研修を受けてみると馬場先生や吉田先生の読影はとても勉強になり、高い画像精度と技師たちの撮影技術や受診者への配慮、言葉づかいは今も手本にしています。教本を読むのも勉強になりますが、実際に撮影して画像を見ながら教わったので、イメージしやすく素直に頭に入りました。馬場先生の質問に答えられなかった時、先生は細胞レベルから解剖などの基礎も図を書いて説明してくださり、点としてしか捉えていなかった事が先生の説明で、点と点どうしが次々と繋がっていき実線となるように関連づけて考えることが出来ました。研修終了後、高濃度バリウムを使用した基準撮影法の画像と今までの撮影法の画像を比較し評価をつけました。結果は読影医、技師と

もに基準撮影法の評価の方が高かったため、基準撮影法（任意型検診）を用いる運びとなりました。また基準撮影法に変更してから、初心者からベテランまでの技術格差が減少し読影しやすくなったと読影専門医から言われ、高濃度バリウムに変えたことで造影効果も上がり、病変の拾い上げ増加に繋がりました。研修後の技師全員に共通して言えるのは、今までよりも精度の高い画像を提供しようという個人の意識も高まったということです。残念ながら検診施設では精密検査後の結果は知ることが出来ても、検診X線・精査X線・内視鏡・病理画像を比較検討し、対比することは出来ません。したがって胃X線検査初心者からベテランまで勉強会・研究会・レベルアップセミナー・研修会などに参加することで知識を増やし、他施設の精度の高い画像を見ることで刺激を受けて技術向上への意欲の糧となり、次の日からの検診に活かせる手助けにもなると思います。

原稿を書いているのは6月の初めですが、もうすぐ私が毎年楽しみにしている花火大会の時季です。夜空に大輪の花火が打ちあがった後は、笑顔になりまた来年も来ようと必ず思います。このように私は受診者が検診を受けて良かった、また来年もこのセンターで受けようと思ってもらえるような検査の進め方や受診者への配慮と言葉遣いも大切だと考えています。（そう思ってもらえるかは別として・・・）これからも受診者のための検診を心がけていきたいと思っています。



## 施設紹介

# 「社団法人 千葉衛生福祉協会」

### < 施設概要 >

当協会は1952年の開所以来半世紀にわたり、地域住民、学校、企業等で活躍される皆様の健康づくりのパートナーとして、広くその役割を果たしてまいりました。健診、診療、そして保健活動という一元的管理体制のもと、トータルヘルスケアを実現しています。2008年にはISO9001認証取得いたしました。



【社 屋】 鉄筋7階建 (約1200㎡)

【組 織】 診療部門 健診部門 保健部門

【従業員数】 88名

- 医師…10名 (含非常勤)
- 保健師…3名
- 管理栄養士…1名
- 看護師…15名
- 診療放射線技師…9名
- 臨床検査技師…11名
- 事務職…38名

### < 画像診断室診療放射線技師概要 >

- 放射線技師会所属者…9名
- 千葉県放射線技師会常務理事…1名
- 千葉市放射線技師会理事…3名
- 千葉県放射線技師女性技師会理事…2名
- 千葉県放射線技師会漏洩線量測定幹事…2名
- 千葉県放射線技師会システム委員…2名
- 千葉県放射線技師会公益法人移行準備委員…1名
- 千葉県放射線技師会裁判対策委員…1名
- 休日救急ボランティア協力者…6名
- 日本放射線技師会選挙管理委員…1名
- 日本放射線技師会代議員…1名
- 千葉県画像づくり研究会世話人…3名
- 日消検関東甲信越地方会放射線部会世話人…1名
- 市民公開講座実行委員…7名
- 上級救命技能認定者…5名
- 胃がん検診専門技師認定者…4名
- マンモグラフィー専門技師認定者…5名
- 日本放射線技師会シニア放射線技師…1名
- 放射線管理士…1名
- 放射線機器管理士…1名
- γ線透過写真撮影作業主任者…1名
- 第1種放射線取扱主任者…1名
- X線作業主任者…1名
- 医療機関特別産廃管理責任者…1名
- 漏洩線量測定講習会修了認定者…4名
- 医療機器安全管理責任者養成講習会終了認定者…4名

## < 室長のつぶやき >

写真の精度アップが重要であるのは放射線技師なら誰でも知っていることである。しかし残念ながら多くの放射線技師に欠けていることは職業倫理意識である。厚生労働省や国民が他のコメディカルより低身分と位置づけてしまっているのは我々自身の責任なのだといったい何割の放射線技師が気づいているのだろうか。無責任、他力本願、自己中心主義、が放射線技師の代名詞ともなっているが、それは唯一の職能団体である放射線技師会の入会率を鑑みれば一目瞭然なのである。

医療職の業務拡大がここにきて取りざたされていることや、特定看護師、物理士問題、など未入会者にとっては関心もなくどうでもいいことなのであろうか。厚生労働省の検討会では他の職種に比べ放射線技師の業務拡大はほとんどなく我々の職域は他の団体に侵食されることは近い将来予想される。整復師や看護師が一般撮影程度は許される時代がくるということだ。過去の国政において医師会の圧力で放射線技師職廃止が叫ばれたが、職能団体が議員に働きかけ阻止をしたことがある。そのおかげで放射線に携わる独占職となっていること、そして、MRIや超音波などは国が「はいどうぞ」と資格をくれたわけではなく、職能団体の努力で勝ち得た資格であることなどどのくらい理解しているのだろうか。（看護師会と臨床検査技師会も手を上げた）放射線学校をやたらに増やさなかったことも職能団体の政策であり、コメディカルの中ではダントツの就職率であり、民間施設における平均給与も飛びぬけていたのである。バイト代もハイレベルなのは言うまでもなく転職も容易にできたのである。このように全放射線技師が多大な恩恵をすでに受けているにもかかわらず、「メリットが無い」とか「会費が高い」とかの外れな言い訳をしている者が多く存在するのは残念でならない。日放の政策を理由に入会しない者もいる。確かに熊谷北村時代に会をはずたにされてしまったのは事実である。しかし未入会者が文句を言えた筋合いではなく入会して正々堂々と意見すべきなのである。選挙の投票にもいかに政治を語る輩となんら変わら



ないのだ。結局、技師会入会は強制ではないのだが、NHK料金と同じく払っても払わなくても視聴できてしまうのと同じで、ずるい人が得をしてしまう世の中ということなのである。

看護師会では国会議員を出し大臣までも輩出した。我々はただでさえマンパワーが足りないところへきてさらに職能団体への入会率が千葉県では特に低いのである。トドのつまり放射線技師のメンタリティーの低さ、視野の狭さが取り返しのつかない事態を招いているともいえる。お尻に火がついていることに気付いておらず安穩としている技師は御めでたいとしか言いようがない。50歳代で隠居が近い技師が諦めているのならまだ理解できるが、20代、30代の若手技師は将来自分自身に降りかかる死活問題なのであるから関心を持たないことのほうが不思議でならない。これを読んで一人でも多くの技師が職能意識に目覚めていただけることを熱望する。（文責滝口）



# 第70回日本消化器がん検診学会 関東甲信越地方会学術集会

開催日:平成22年9月4日(土)

第11回 放射線フォーラム

会場:JR千葉駅前 京葉銀行文化プラザ

第12回 超音波学術集会

参加費:3000円 時間:9:00~18:05

第39回 保健衛生部会

## ～受けさせる検診から受きたい検診へ～

招待講演

～がん検診50%受診率をめざす千葉県の取り組み～

講師:井上 肇【千葉県健康福祉部理事】

司会:小原 修

シンポジウム

～検診現場の問題点とその対応策～(精度と受診率の向上を目指して)

司会:仲村 明恒・篠原 勇

シンポジスト

高瀬 美子・岡田 義和・田口 佳久・稲田 正貴・滝口 裕

ランチョン講演

伏見製薬:堀井薬品工業:カイゲン3社によるオムニバス講演

司会:萩原 常夫

特別講演 1

～胃X線検査のピットフォールと問題点～

講師:長浜 隆司【早期胃癌検診協会中央診療所長】

司会:細井 董三

特別講演 2

～検診が消化器がん死亡率に寄与するためには～

講師:斎藤 博【国立がん研究センターがん予防・検診研究部長】

司会:山岸 忠好

合同胃症例

司会:瀬崎 徳久・村岡 勝美

検討会

症例提供者:關 良充・瀧野 勝彦・竹中 祐太・本田 今朝男

教育講演 1

～肝臓癌の早期診断を目的とした腹部超音波検査の進歩～

講師:山口 和也【ちば県民保健予防財団】

司会:大波 忠

教育講演 2

～膵癌の超音波診断と早期発見のためのプログラム～

講師:田中 幸子【大阪府立成人病センター】

司会:小島 正久

テクニカルミーティング ～超音波所見の書き方・膵臓・

シンポジウム ～胃がん検診の事後フォローをとおして  
精度管理を考える～

座長 小田 丈二 司会 小川 敬子

事務局 〒276-0022 千葉県八千代市上高野1353-7

日本健康倶楽部千葉支部 ☎047-487-3026

実行委員長 西野 高敏

運営委員長 滝口 裕 (千葉衛生福祉協会)



会長 日本健康倶楽部 千葉支部 山岸 忠好

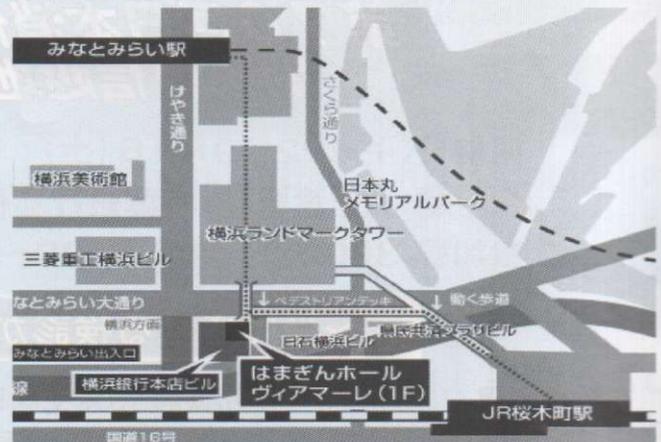
## 超音波スクリーニング研修講演会2010横浜

日時：平成22年12月18日（土）  
 午前9時55分～午後5時50分  
 ＊開場・受付開始：9時30分から

会場：はまぎんホール（ヴィアマーレ）  
 横浜市西区みなとみらい3-1-1  
 Tel 045-225-2173

＊JR・横浜市営地下鉄線 桜木町駅下車  
 動く歩道利用5分

＊みなとみらい線 みなとみらい駅下車  
 「クイーンズスクエア連絡口」  
 「けやき通り口」より徒歩7分



参加費：4,000円（資料代含む） 事前登録不要

主催：日本消化器がん検診学会/日本総合健診医学会  
 超音波スクリーニング研修講演会運営委員会 会長：竹原 靖明（横浜総合健診センター）

後援：神奈川県臨床検査技師会/神奈川県放射線技師会

問合せ：関東中央病院 画像診断センター（担当：山田） E-mail kensa.gazou@kanto-ctr-hsp.com

### プログラム テーマ：『USスクリーニングの課題』

09:55	開会の辞	竹原 靖明
10:00～11:00	『胆道』	講師：関口 隆三（栃木県立がんセンター） 司会：小島 正久（公立学校共済 関東中央病院）
11:00～12:00	『乳腺』	講師：角田 博子（聖路加国際病院） 司会：高田 悦雄（獨協医科大学病院）
12:30～13:15	ランチョンセミナー	
	『甲状腺』	講師：福成 信博（昭和大学横浜市北部病院） 司会：西川 かおり（杏林大学医学部付属病院）
13:30～14:30	『腎・膀胱』	講師：桑島 章（PL東京健康管理センター） 司会：小野 良樹（東京都予防医学協会）
14:30～15:30	『肝臓』	講師：平井 都始子（奈良県立医科大学附属病院） 司会：竹原 靖明（横浜総合健診センター）
15:45～16:45	『消化管』	講師：森 秀明（杏林大学医学部付属病院） 司会：依田 芳起（山梨県厚生連健康管理センター）
16:45～17:45	『膵臓』	講師：岡庭 信司（飯田市立病院） 司会：増田 英明（三ツ沢ハイタウンクリニック）
17:45	閉会の辞	桑島 章

- \*超音波検査士更新5点が付与されます。 ＊会場内での録画・録音は禁止致します。
- \*ランチョンセミナーで軽食（550食限定）の用意をしています。（受付時整理券をお渡しします）
- \*書籍の展示販売を行います。

## ザ・ベスト・イメージング・コンテスト作品募集(The Best Imaging Contest)

第70回日本消化器がん検診学会関東甲信越地方会学術集会（第12回超音波部会学術集会）において「ザ・ベスト・イメージング・コンテスト」を開催いたします。

記録された超音波写真には検査担当者の思いが込められています。日常業務で撮影された自慢のベストショットを応募してください。応募していただいた超音波写真を、応募者・所属施設を伏せて会場においてスライドショーで閲覧し、会場参加者の投票でベストイメージングを選出します。優秀賞には粗品を進呈いたします。

応募資格は医師・技師を問いません。また応募者のプレゼンテーションはありませんので、学術集会に参加できない方でも応募して頂いて結構です。

特に、出張検診で活躍されている方々のご応募お待ちしております。

### 応募要項

- 【超音波画像】** Bモード（カラードプラ・パワードプラ可）1枚（ただし2分割使用可）
- 【領 域】** 上腹部（肝臓、胆道、膵臓、脾臓、腎臓、消化管、腹部大動脈、その他）
- 【応募方法】** E-mailで件名を『ベストイメージング（応募者名）』とし、氏名・連絡先住所を明記の上、添付ファイル（power point）で応募して下さい。  
 《スライド1枚目》氏名、所属施設名、超音波機種名、周波数、患者（検診者）の年代・性別、診断名、コメント（術者の一言）  
 《スライド2枚目》超音波画像
- 【応募先】** 新横浜ソーワクリニック 担当：中村 稔 Mail：kensa.yokohama@sowa.or.jp
- 【締め切り】** 平成 22 年 8 月 15 日（必着）

## 消化管の診断に

処方せん医薬品

X線造影剤〈硫酸バリウム製剤〉

◇パウダー製剤

ネオバルギンEHD

ネオバルギンUHD

ネオバルギンHD

バリトップHD

バリブライトP

バリブライトCL

バリコンクMX

◇ゾル製剤

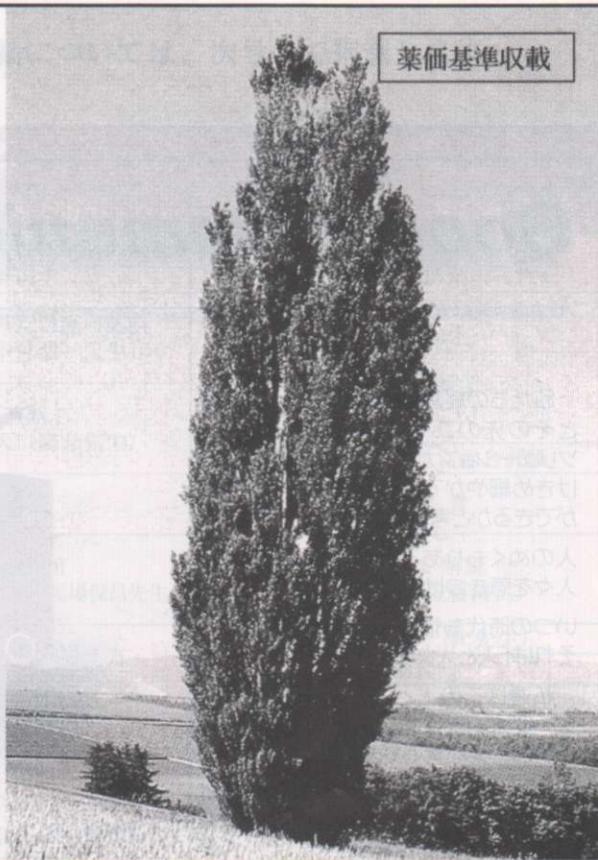
バムスターS200

バリトップ120

バリトップゾル150

バリブライトゾル180

薬価基準収載



効能・効果、用法・用量、禁忌を含む使用上の注意等については添付文書をご参照ください。

※注意—医師等の処方せんにより使用すること

発売元



株式会社 **カイゲン**

大阪市中央区道修町2-5-14〔資料請求先 新薬本部〕

<http://www.kaigen.co.jp>

## 第43回放射線部会学術集会のご案内

### 「高齢化社会の胃がん検診」

大会長：佐藤一雄（JA長野厚生連 佐久総合病院）

会期：平成23年2月19日（土）9時30分～18時00分

会場：長野県佐久勤労者福祉センター  
〒385-0029 長野県佐久市佐久平駅南4-1  
駐車場 1000台  
長野新幹線 佐久平駅徒歩5分  
上越自動車道 佐久ICから徒歩5分

プログラム：シンポジウム「高齢化社会における胃がん検診のありかた」他

懇親会：ホテル 佐久平プラザ21  
〒385-0028 長野県佐久平駅東2-6  
学術集会会場から徒歩7分

## Good Communication!

## Opus One!

私たちの経営ビジョンは、クライアントとその先のユーザーの視点に立ったソリューションカンパニーとして、どれだけきめ細やかで効率の良い広告の提案ができるかと考えています。

人のぬくもりある提案は時代を超えて人々を惹きつけます。

いつの時代も情報の原点は、「会話」。それは「人と人」。

私達はこの人と人の「グッドコミュニケーション」をキーワードに、心の豊かな人材と企業を育ててまいります。

グッドコミュニケーションで人の和が広がり、明るい社会創りに貢献してまいります。



FUTURE BOX  
このフューチャーボックスは、希望ある未来の引き出しの象徴として、当社をイメージしました。

#### 主な事業内容

- 広告・デザイン ▶ 企画・提案
- プロモーション戦略 ▶ リサーチ・プランニング
- 新聞広告 ▶ 企画・提案
- Web広告 ▶ デザイン・企画・提案

#### 広告代理店

株式会社 オープスワンコミュニケーションズ  
〒101-0051 東京都千代田区神田神保町 2-4-7  
TEL:03-3512-3560 FAX:03-3512-3826  
e-mail:opus1@opus1.co.jp URL:http://www.opus1.co.jp/

## 第 33 回 消化管造影技術研修会のご案内

主催 : 日本消化器がん検診学会関東甲信越地方会

後援 : 日本消化器画像診断情報研究会

日本消化器がん検診学会関東甲信越地方会では毎年、消化管造影検査に携わる放射線技師を主な対象に消化管造影技術研修会を開催しております。この研修会は検査中に異常所見を素早く判断できる高度な知識、関心部位の適切な表現を可能とする造影技術と読影法の習得を目的とした合宿制で行っております。

下記プログラム（予定）の講師陣による講義、持参フィルム検討会と技術指導は、毎回多くの受講生から好評を得ております。

開催は来年となりますので詳細は今後の案内に掲載しますが、この機会に是非とも受講いただけますようご案内申し上げます。

### 記

[開催期日] 平成23年1月28日(金)～30日(日) 2泊3日

[研修会場] 日本青年館ホテル 〒160-0013 東京都新宿区霞ヶ丘7-1 TEL03-3401-0101

[受講資格] 消化管造影検査に係わりのある方ならどなたでも受講できます。

[募集人数] 約80名

[申込方法] 申込方法、申込締切、講習会費用等の詳細については、次号にて掲載します。

### プログラム

	28日(金) 9:00～	29日(土) 8:30～	30日(日) 8:30～
9:00	オリエンテーション	大腸X線検査法 (腰塚慎二or奥田圭二)	実験 ー硫酸バリウム造影剤の特性ー
10:00	胃がん検診専門技師認定について(木村俊雄) 胃X線検査の基礎Iー基準撮影法についてー (黒木幹夫)	胃癌組織発生からみた胃癌の診断 ー胃癌の三角ー(中村恭一先生)	デジタル画像の臨床&造影剤に求めること (杉野吉則先生)
11:00	胃X線検査の基礎IIー検診の実際ー (見本真一)	胃癌のX線診断I ー症例に学ぶー(入口陽介先生)	食道X線診断学 (八巻悟郎先生)
12:00	昼 食	昼 食	講評 持参フィルム総合評価
13:00	消化管検査のリスクマネジメント (鶴田恭央、宮田和則、佐藤一雄)	昼 食	昼 食
14:00	前壁撮影のテクニック(木村俊雄)	胃癌のX線診断II ー肉眼・組織所見との対比ー(馬場保昌先生)	読影試験 & 解説 (本田今朝男、佐藤清二)
15:00	病変描出手技 ー追加撮影のポイントー(本田今朝男)	胃X線画像の読み方と考え方 (吉田諭史先生)	総 括 (林 學 先生)
16:00	胃X線検査のピットホール ー横胃の撮影法ー(工藤泰)	症例検討会 (吉田諭史先生)	閉講式
17:00	デジタル装置の保守と管理 (埋橋喜次)	交流会	
18:00	夕 食		
19:00	持参フィルム検討会 (間接・直接・DR別)		
20:30	個別検討あり(希望者)		

※講師の都合により変更になる場合があります。

## 第34回部会研究会総会プログラム (第2報)

秋の部会研究会総会は本学会の大会がJDDW参加により、JDDWの開催地で開催をしておりましたが、本年度よりJDDW開催地で行わず、大会会長の地域で開催いたします。おまちがいのないようにご参加ください。

当日発行される参加証兼領収書は胃がん検診専門技師の認定および更新に必要ですので大切に保管してください。

尚、午後の部の部会研修会は部会研究会総会の参加証（更新単位5点）で参加できますが、研修会修了証（更新単位4点）は研修会終了時にお渡しします。（途中退場者にはお渡しできません）

詳細なプログラム及び演題募集要項は宮城県対がん協会のホームページ(<http://www.miyagitaigan.or.jp/>)に随時掲載していきますのでご参照ください。

日 時：平成22年10月23日（土）

会 場：フォレスト仙台（フォレストホール）  
〒981-0933 宮城県仙台市青葉区柏木1-2-45

参加費：4,000円

世話人：第48回日本消化器がん検診学会大会  
会長 樋渡信夫（いわき市立総合磐城共立病院）

問い合わせ先：実行委員長 長谷川圭三  
（財）宮城県対がん協会がん検診センター 放射線課  
〒983-0932 宮城県仙台市宮城野区安養寺3-1-5  
TEL：022-292-0113 FAX：022-292-0118  
E-mail：m.hosyasen@miyagi-taigan.or.jp



## プログラム

### 《午前の部 部会研究会総会》

- 9:10.....開会挨拶
- 9:20.....部会委員会報告  
部会委員会担当理事 渋谷 大助
- 9:30.....特別講演「がん検診の判断学について」  
(財)宮城県対がん協会 久道 茂
- 10:30.....シンポジウム「画像評価の基準について PARTⅢ」
- 12:00.....ランチョンセミナー  
仙台厚生病院 長南 明道

### 《午後の部 第6回部会研修会》

- 13:00.....一般演題
- 14:30.....症例検討会
- 15:30.....教育講演「陥凹性早期胃癌のX線所見と判断基準について」  
早期胃癌検診協力会 吉田 諭史
- 16:30.....閉会挨拶

# 第50回日本消化器がん検診学会総会のご案内

会長：森山光彦（日本大学医学部内科学系消化器肝臓内科学分野）

会期：2011年5月20日（金）～22日（日）

会場：東京プリンスホテル

東京都港区芝公園3-3-1 TEL:03-3432-1111

本記念大会では初日20日（金）の午後、日本消化器がん検診学会創立50周年の記念式典・祝賀会が開催される予定です。

なお、詳細プログラムおよび演題募集要項は9月以後本学会ホームページ（URL:http://www.jsgcs.or.jp）に随時掲載されますのでご参照ください。

第50回日本消化器がん検診学会総会 事務局 事務局長 小川眞広

日本大学医学部内科学系消化器肝臓内科学分野 内

〒173-8610 東京都板橋区大谷口上町30-1

TEL：03-3972-8111（内線2424） FAX：03-3956-8496

運営事務局 担当 小森陽介（株）勁草書房 コミュニケーション事業部 内

〒112-0005 東京都文京区水道2-1-1

TEL：03-3814-7112 FAX：03-3814-6904

E-mail：JSGCS50@keiso-comm.com

## 食道から大腸まで

適確診断のために……

### 薬価基準収載

処方せん医薬品 注意・医師等の処方せんにより使用すること

#### 【硫酸バリウム製剤】

■ 上部消化管X線造影剤

**バリテスター<sup>®</sup>A240散**

**バリトゲン<sup>®</sup>SHD**

■ 注腸用X線造影剤

**エネマスター<sup>®</sup>注腸散**

■ X線CT用経口消化管造影剤

**バリトゲン<sup>®</sup>CT**

■ 消化管X線造影剤

**バリトゲン<sup>®</sup>HD**

**バリトゲン<sup>®</sup>ゾル145**

【炭酸水素ナトリウム・酒石酸配合剤】

**バリトゲン<sup>®</sup>**

**バリトゲン<sup>®</sup>ゾル**

■ X線診断二重造影用発泡剤

**バリトゲン<sup>®</sup>デラックス**

**ウムブラ<sup>®</sup>MD**

**バリエース<sup>®</sup>発泡顆粒**

■ 胃内有泡性粘液除去剤

**バリトゲン<sup>®</sup>消泡内用液 2%**

（ジメチコン内用液）

■ 緩下剤

**ファースル<sup>®</sup>錠 2.5mg**

（ピコスルファートナトリウム錠）

※ 効能・効果、用法・用量、禁忌を含む使用上の注意等詳細は、添付文書をご参照下さい。



**伏見製薬株式会社**

● 資料請求先 / 学術室

〒763-8605 香川県丸亀市中津町1676 TEL 0877-22-7284 FAX 0877-22-6284

仙台営業所 / TEL 022-295-5667 東京営業所 / TEL 03-5328-7801 名古屋営業所 / TEL 052-732-8555  
大阪営業所 / TEL 06-6221-5101 中四国営業所 / TEL 0877-22-7284 福岡営業所 / TEL 092-413-4107

やさしく温もりをもって届けたい。



## 著書紹介「医療体制への鼓動」＝ 検診に携わった技師の記録 ＝ 著者：石渡良徳（財団法人神奈川県労働衛生福祉協会）

平成22年5月、放射線部会会員であり、胃がん検診線専門技師認定制度の確立に関わった石渡氏による著書が発刊されました。

著者が四十数年間携わってきた胃がん検診の歴史が刻まれています。

運命づけられていた放射線技師という職業との出会い、運命的な方々との出会い、検診の精度向上への取り組み、運営と経営におけるさまざまな苦勞と経験は、消化管検査に携わる放射線技師はもとより、他モダリティで活躍する放射線技師の方にもご一読いただきたい著書であります。



## 編集後記

暑い時には、よく冷えたビールが最高という方も多いと思います。私の場合には、夏の暑い時でも日本酒の燗酒を楽しんでいます。現在、燗酒の温度は、30℃～55℃までを5℃間隔で区切って分類されています。

「日向燗・人肌燗・ぬる燗・上燗・熱燗・飛び切り燗」

今でこそ有名な地酒を燗酒にしてくれと居酒屋で頼んでも、断られる事は少なくなりましたが。ただ、それぞれの地酒による燗の温度にまで気を遣って燗をしてくださる居酒屋はめったにありません。そんな居酒屋は常連客として通うことをお勧めします。

燗酒の理解が得られていなかった頃は、

客「このお酒、お燗にして。」

店主「このお酒、燗にするにはもったいないですよ。」「うちは燗にする酒は決まっていますので、冷やで飲んでもらうことになっています。」

なんて問答がお決まりでした。

旅先の旅館で、広く口の電気ポットに四合瓶をそのまま入れて瓶燗をしたり、人目を盗んで露天風呂へ一升瓶を抱いて入

浴したり、居酒屋で燗を断られたが、とっさに閃いて湯豆腐を注文して徳利をつっこんだりして、苦勞して温めたということです。また、福沢諭吉があんどんを囲炉裏に見立て、一升瓶を吊るした「あんどん燗」が有名です。夕方から吊るして酒が飲み頃となるのが深夜の12時、これを楽しみに諭吉は夜間の勉学に励んだそうです。

私の晩酌は、湯煎徳利とお燗メーカー使い、その日本酒の適温を探しながら飲んでいます。美味しい日本酒を心行くまで楽しむには、もっとも味がのっている熟成時期の日本酒を適温に燗にすることが必要であり、一番ふさわしい食べ物が添えられていることです。

これが、「日本酒の味わいの至福の瞬間」と思います。

### 参考文献

「日本酒味わい入門」尾瀬あきら  
「日本酒百味百題」小泉武夫

財団法人埼玉県健康づくり事業団  
岡田義和

### 編集委員

編集委員長

今井 貴子 米倉 福男 神宮字広明 竹林 章子 青木 敏郎  
山本 美穂 今井 仁彦 笹島 雅彦 渡辺 靖 岡田 義和

(非売品)